

基本理念

目的（存在理由）

社会への貢献

わたしたちは
社会に役立ち、人々の心や暮らしを豊かにし、
よって社会に貢献することを目的とします。

基本的価値観（不変の主義）

1 開拓の精神

わたしたちは、失敗を恐れず、情熱を持って、
未開の地（新しい分野）に挑戦することを誇りとします。

2 不断の努力

わたしたちは、弛みない努力によって、
困難に打ち勝ち、目的の実現に至ることを喜びとします。

3 誠実な意志

わたしたちは、わたしたちを支える人々^{*}に対し、
揺らぐことのない誠実な意志によって行動します。

※「わたしたちを支える人々」とはステークホルダー
（お客様、サプライヤー、株主・投資家、従業員とその家族など）を指します。

10年ビジョン（2008年4月～2018年3月）

技術力と収益力において

世界一のモバイルスペースメーカーになり、
資源循環型ビジネスにより社会へ貢献する。

株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに第49期中間(平成29年4月1日～平成29年9月
30日) 報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当第2四半期連結累計期間(当上期)における日本経済は、
個人消費の増勢が加速し、好調な企業業績を受けて設備投資
は堅調に推移するなど、景気は緩やかに回復しつつあります。
米国の金融政策正常化や北朝鮮リスクなど不透明な問題は
あるものの、国内需要は、雇用所得環境の改善などにより、
今後も底堅く推移するとみられます。

ユニットハウス業界においては、補正予算の執行などによる
公共インフラの補修補強工事の活性化や、東京五輪の関
連施設工事や都市部の再開発などにより建設投資は需要の

高い状態が続いている一方で、資材購入価格の上昇や建設
労働者の人材不足が顕在化していることが危惧されてお
ります。このような状況の中、当社の主力製品であるユニ
ットハウスは、工期短縮や建築コストの抑制が可能な工
業化建築物としてますます市場優位性を発揮しております。

「必要なとき、必要なだけ、必要な空間を提供する」
ことにより、当社のユニットハウスは従来の仮設建築市場
のみならず、本建築市場、不動産市場にまでその優位性
を十分に発揮できるものと確信しています。“建築の工業
化”という当社のコア技術をさらに高めていくことにより、
新たな市場の開拓を図っていく所存です。

今後も創業当時から受け継がれてきたフロンテアスピ
リッツ（開拓の精神）を原点に、社会に貢献する会社を
目指し、情熱を持って活動してまいります。

当上期の業績について

ユニットハウスのレンタルにおいては、堅調な民間建設
投資の影響と、東京五輪の関連施設工事や都市部の再開
発など大型案件の受注活動に積極的に取り組むことにより、
出荷棟数・稼働棟数ともに高い水準で推移しました。ま
た、デザイン性や機能性をさらに高めることで、イベ
ントや建替時の仮施設など本建築市場におけるレン
タル受注拡大に努めました。

ユニットハウスの販売においては、3F建てや大型連棟
が可能な新製品「MS1」が本格的に導入されたことにより、店

舗・一般事務所といった本建築において大型物件の受注
が大幅に増加しました。また、旺盛な需要に対応するため、
全国的に設計・施工協力会社のネットワーク拡充に努め、
受注体制をさらに強化することで、より一層の収益の
拡大に努めました。

トランクルームのレンタルにおいては、WEB広告を強化
するなど稼働率の向上を図り、既存店の収益力改善に
努めました。

上記の結果、当上期の連結売上高は18,577百万円
(前年同期比0.7%増)となりました。

利益面においては、営業利益2,347百万円(前年同期
比19.6%減)、経常利益2,334百万円(前年同期比
20.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,368
百万円(前年同期比10.0%減)となりました。

今後とも、リユース可能なユニットハウスの特長を活
かし、期間限定で空間を必要とするニーズを開拓し、
業績の拡大に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層
のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申
上げます。

平成29年12月
代表取締役社長 長喜貴嗣